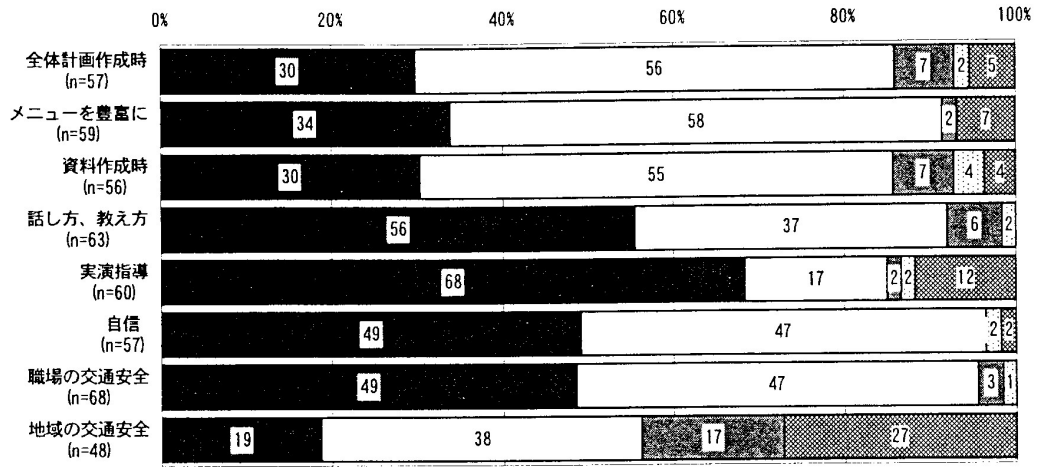


運転者教育の高度化に関する調査研究（平成15年度）

安全運転教育・指導を行う施設における教育指導の内容やその手法については、日々改善の努力がなされているものの、それらが交通事故防止にどの程度寄与しているかについては必ずしも明らかでない。そこで、教育・指導の内容や方法の高度化に向け、個々のドライバーの技量等の改善効果について検討するとともに、教育・指導の内容・方法の改善策について検討を行った。

- ① 自動車安全運転センター安全運転中央研修所又はクレフィール湖東の研修を終了した者に対するアンケートの結果、望ましい運転行動を現在も行っている者が7～9割、研修が役立ったと評価する者が10割近く、研修を他の人に勧めた者が9割、研修教官・研修施設が良かったと評価する者が7～10割近くに達し、役立った研修項目についても多くの科目が挙げられるなど、肯定的な回答が多かった。研修生を派遣した事業所の回答においても、研修効果の評価が同様に高かった（図）。一方、研修修了者からは自分の走行データと理想的な走行データとの比較表作成、実技研修の体験回数増加など、事業所からは研修効果判定表作成や研修費用など多くの要望が挙げられた。また、研修で得た知識を職場で活かす上で何らかの不都合があると回答した者が3割近くに達し、地域の交通安全について役立てる機会がないとの回答が、安全運転に関して指導的立場にある者のうち3～4割あった。
- ② 中央研修所で研修を受講したグループ（受講者群）及び年齢、免許取得時期等が受講者群と同条件のグループ（対照群）が一定期間に起こした交通事故・違反データをもとに統計的分析を行った結果、受講者群の事故率（人身事故）は対照群と比べると低いことが分かった。違反率も対照群と比べて低いと認められた。受講者全体のうち、初めて研修を受けた者は研修後の違反率が研修前より低下していた。一方、研修経験者は研修前後で差は認められなかったが、経験なしの者に比べて違反率が低かった。この他、アンケート調査の中で物損事故、もらい事故発生率も研修後に低下したことが認められた。
- ③ 中央研修所の研修受講者（受講者群）及び研修を受講していない者（未受講者群）を対象に、中央研修所のテストコースを用いて、車体まわりの確認状況、運転姿勢、走行時の確認状況、急制動時の停止距離、高速走行時の車間距離、緊急自動車の緊急走行状況について計測した結果、いずれの実験においても受講者群は研修前に比べて運転行動が大きく改善していると認められたが、未受講者群ではほとんど差が認められなかった。一方で、計測結果を受講者ごとにみると、技能等のレベル差も大きく、また、研修後の改善が見られない者、効果の小さい者もみられた。このため、受講者のレベル別課程区分を設けるなど、きめ細かな対応が望まれる。

図 研修経験の反映状況



■大いに役立った □ある程度役立った ▨あまり役立たなかった □まったく役立たなかった ▩その機会がなかった

設問	事業所数	有効回答数	大いに役立った	ある程度役立った	あまり役立たなかった	まったく役立たなかった	その機会がなかった
全体計画作成時	83	57	17	32	4	1	3
メニューを豊富に	83	59	20	34	1	0	4
資料作成時	83	56	17	31	4	2	2
話し方、教え方	83	63	35	23	4	1	0
実演指導	83	60	41	10	1	1	7
自信	83	57	28	27	0	1	1
職場の交通安全	83	68	33	32	2	1	0
地域の交通安全	83	48	9	18	8	0	13